

地域社会との密接な連携を築こう

～ 地域全体で将来の地域の担い手となる子どもを育てよう ～

安城市立篠目中学校父母教師会

1 学区及び学校の概要

本校は、安城市の北西部に位置し、J R 三河安城駅北側の都市住宅開発が進む一方、田園や梨畑が広がっており、新しさと懐かしさが共存する地域にある。安城市で8番目にできた一番新しい中学校であるが、令和4年度に創立40周年を迎えようとしている。本校の卒業生として、アテネ・北京両五輪女子柔道63kg級金メダリストの谷本歩実氏、ロンティボー国際ピアノコンクールにおいて弱冠20歳で1位を獲得したピアニスト田村響氏を輩出している。本年度生徒数699名(10月末現在)、学級数22(内特別支援学級3)、外国籍生徒または日本語教育を必要としている生徒が1割程度在籍し、多様性豊かな環境の中で、生徒たちは明るく伸びやかに学校生活を送っている。

2 研究のねらい

本校の経営方針の一つ『『感じあい 支えあい 高めあう篠中愛』を合い言葉に、学校生活や地域での活動を大切にしながら、仲間意識を醸成し、地域社会に貢献できる篠中生を育てる』の実現を目指し、学校、保護者、地域と共に協働して、生徒の健やかな成長を育んでいきたいと考えている。また、PTAの活動を学校教育活動の中に効果的に組み込むことで、地域を愛し、地域に愛される生徒の育成につなげたいと考えた。

3 研究の方法

PTA活動ならびに各種団体、公的機関と協力して生徒が地域の方々とふれあい、ともに活動できる場を設定し、将来の地域人材育成として地域づくりの土台・足場とする。

4 研究の実践

本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、学校行事、PTA活動、地域行事のすべてが中止または縮小されているため、昨年度の活動を中心に実践報告とする。

(1) 資源回収

例年、全校生徒とPTAが協力し合って、年2回資源回収を行っている。生徒が通学班ごとに分かれ、学区の各拠点を集積場所として地域を回り、資源を回収している。PTAは集積場所で資源を受け取ったり、車を出して生徒の活動をサポートしたりしている。生徒とPTA、生徒と地域の方、PTAと地域の方、それぞれにおいて活動を通して会話が生まれ、地域との交流につながっている。本年度は2回とも中止となり、それに代わって、年5回、学校1か所を集積場所とし、保護者や地域の方に協力してもらい、学校へ直接資源を運んでもらう方法をとっている。親子でいっしょに運んだり、町内会や地域の事業所が協力してくれたりし



ながら、コロナ禍に対応する形として工夫しながら取り組んでいる。

(2) 朝のあいさつ運動

月に1～2回、朝の登校時に保護者と教師が協力し合い、ときどき生徒会とタイアップしながら「朝のあいさつ運動」を行っている。気持ちよくあいさつを交わす運動を通して、日常的にどんな場面でも自然にあいさつができる生徒が育っていくことを願って活動している。



(3) 環境整備

年に2～3回、PTA環境整備委員会が主催し、各家庭に呼びかけて参加者を募り、校庭の生垣剪定や草刈り、落ち葉の収集等を行っている。四季折々に植物の成長は著しく、放置すれば環境は荒れ、日常の清掃活動だけでは間に合わない状況がある。そこで、保護者の協力を得て、子どもたちの学びの環境を整えて、子どもたちが気持ちよく学校生活を送られるように願いを込めて活動している。



(4) 地域行事への参加

学区町内会が主催する「篠目公園夏祭り」、「作野公民館まつり」、「二本木連合町内会運動会」、三河安城商店街が主催する「三河安城フェスタ」等、毎年恒例となっている地域行事に多くの生徒がボランティアとして積極的に参加している。地域の行事のため、PTAも何らかの形で関わりをもっており学校もまた参加者募集のお手伝いをしている。今年はその多くがコロナ禍の影響を受け中止となった。これらの行事は、地域のために地域の方々顔を合わせていっしょに働くことで地域に貢献できる機会となっており、楽しみにしている生徒も多いため本当に残念である。地域の方々もまた、未来を担う若い力で地域を盛り上げてほしいという願いをもって計画している行事のため、来年度に向けて、再び実施できるようになることを強く願っている。

5 研究の考察

新学習指導要領では、社会に開かれた教育課程の実現が目標とされている。新しいことを始めるということではなく、これまで実践してきたことについて、目的に沿って生徒が主体的に関わりながら活動できる内容に工夫していくことが大切だと考えている。やらされている活動から自ら進んで行動するような意識をもって活動するものへ変わっていかなければならない。そこを学校、保護者、地域が連携して生徒をサポートしていけるようにしていきたい。

6 成果と今後の課題

今年コロナ禍でいろいろなことが中止になったことで、PTAとしてどのような活動ができるのか考えさせられることが多かった。現状から考えると仕方がないこととはいえ、どこまで対策を講じると実現できるのかを学校も地域もいっしょになって考えた。そこで見えてきたことは、学校も保護者も地域も子どもたちのためになんとかしたいという想いであった。希望をもち続けることが明日を開くエネルギー源になっていることに確信がもてたことが収穫であった。